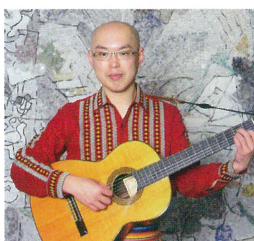


ロシア塩満



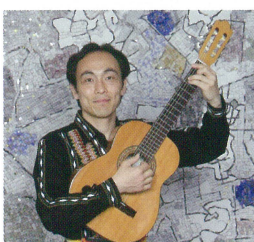
幼い頃にパラグアイで生活し、そのときに聴いた民俗楽器アルパの音色に魅せられて高校卒業後、アルパ習得のためパラグアイへ渡る。1975年にプロ・デビュー。以後アルパ奏者として国内外で活動が続ける。日本で長年にわたり、アルパとパラグアイ音楽を広く紹介した功績がパラグアイ政府に認められて、1995年に【文化功労賞】が、2004年に【国家功労勲章・コメンダドール位】が授与される。海外ではアルゼンチンの『コスキン・フェスティバル』には5回出場(日本人として過去最高)。パラグアイでは『第1回世界アルパ・フェスティバル』(2007年)に招待出場。2012年にはベネズエラ、カラカス市での日本文化週間では満員の観客を沸かせる感動的なコンサートを行う。2013年には念願だった自分のトリオでのパラグアイ・コンサートを実現させ、成功をおさめる。これまでにパラグアイ大統領来日歓迎式典をはじめ多くの要人の前で演奏する機会も多く、日本とパラグアイの文化交流の担い手としても活動する。自主制作で発売したCDは8作品を数える。

高橋マサヒロ



いくつかの日本のフォルクローレ・グループの一員として演奏活動を続けた後、フォルクローレの本場ボリビアへ渡り研鑽を積む。1994年にはボリビアでCDを録音し、現地マスコミの間で注目される。帰国後1995年にケーナとサンポーニャの新たな音楽性・可能性を追求する演奏活動を始める一方、3作品のCDを自主制作する。ケーナ、サンポーニャ、フルート、ギターを演奏し、アレンジでも偉才を発揮する。2013年にはロシア塩満のパラグアイ・コンサートに同行する。

菱本幸二



13歳でケーナ、その後サンポーニャと出会い独学で習得し大学在学中より演奏活動を開始する。1987年、国際交流基金の中南米7ヶ国公演に参加。ボリビアでチャランゴの名手エルネスト・カプールのグループで演奏する機会を得る。その後、ケーナの第一人者ロランド・エンシーナス率いるグループに参加する。近頃はロランド・エンシーナスと結成したグループで日本での学校コンサートを行う。演奏・編曲のほかソリストとしても活動する傍ら自己のCDも制作。2013年にはロシア塩満のパラグアイ・コンサートに同行する。

グルーポ・カンタティ



南アメリカ、アンデス地帯の中央に位置する国、ボリビア。そのボリビアの音楽を日本に紹介し続けて32年目を迎える。日本人による本格的ボリビア音楽グループとして、国内での活動の他、たびたび現地ボリビアに渡り、ラパスやサンタクルスなど本場での演奏活動は多数に及び、現地録音のアルバム制作を実現させるなど、その実力は本場ボリビアでも認められている。最新アルバム『陽だまりのささやき』を含め現在までに8作のアルバムを発売している。グループ名の「カンタティ」はボリビア高地に住む先住民族アイマラの言葉で「夜明け」の意味。メンバーはエルネスト河本、島田静江、武田耕平で構成され、アンデス地方の楽器を操るパワフルなアンサンブルが魅力。リーダーのエルネスト河本は、ロシア塩満のデビュー当初にギター伴奏でグループを組んでいた経歴も持ち合わせている。